



TITLE:

本多利明ノ經濟說ニ關シ福田博士
ノ高教ニ答フ

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 本多利明ノ經濟說ニ關シ福田博士ノ高教ニ答フ. 經濟論叢
1916, 3(2): 110-112

ISSUE DATE:

1916-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127064>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

大正五年八月一日發行

號二第

卷三第

論說

國防税ノ本質

でうゐつぎ・ひゆーむノ經濟學說(四)

資本ノ眞概念ノ發展(二)

戦後ノ人口増加政策(二)

支那近代ノ戸口ニ就テ(三完)

在外正貨ト兌換券ト關係ヲ論ズ

雜錄

服部氏ノ批評國際經濟論ニ對スル向井氏ノ批評

瀧本誠一氏ノ草茅危言摘義解題ニ就イテ

福田博士ニ答フ

戰時利得税ノ諸學說及實例

英吉利ノ新税

米國ニ於ケル船舶買收法案ニ就テ

經濟雜誌第五

統計書ノ概說

らぐれー「ミール」學說ノ研究(三)

『通俗經濟文庫』ノ刊行

『經濟大辭書』ノ完成

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 河上 肇

文藝博士 米田 庄太郎

法學博士 内藤 虎次郎

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 鈴木 券太郎

法學博士 本庄 榮治郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河田 嗣郎

法學博士 岸本 熊太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 財部 靜治

商學博士 大塚 金之助

法學博士 福田 德三

法學博士 神戸 正雄

法學博士 神戸 正雄

(載 轉 禁)

本多利明ノ經濟說ニ關シ

福田博士ノ高教ニ答フ

本庄榮治郎

本誌第二卷ニ連載セラレタル拙稿『本多利明ノ經濟說』ハ粗笨蕪雜ニ失シ、自ラ省ミテ忸怩タルモノ少カラサリキ。然ルニ誤テ斯學ノ巨人福田博士ノ眼ニ觸レ、ソノ高教ヲ忝クスルニ至リシコトハ余ノ甚タ光榮トスル所ナリ。而シテ博士ノ高教ニヨリテ、余ノ用語法ノ不正確ニシテ論旨ヲ徹底セシムル能ハサリシコトヲ知り得タルヲ以テ、茲ニ博士ノ質問三則ニ答フルト共ニ、余ガ論旨ヲ明カナラシメント欲ス。

(一)『西洋諸君政務書』ナル書ニ就テハ利明ノ小宮山楓軒ニ宛テタル書狀ニ於テソノ名ヲ見タルノミニシテ、諸處ヲ探索シタルモ未タソノ書ヲ閱讀スルコトヲ得サリシモノ也。從テソノ内容ニ就テハ知悉スル所ナシ。而モ之ヲ舉示シタル所以ハ(ロ)ノ項ニ記セル所ト同シク、單ニ洋書閱讀若クハ翻譯ノ一例ヲ示サンガ爲メニ外ナラ

ザル也。又『せおがらび』ナル書ニ就テモ、立原翠軒宛書狀ニ於テ、ソノ内容ノ一斑ヲ知ルノミニシテ、未タソノ書ヲ見ルヲ得サリシコトヲ遺憾トス。

(二)利明ノ洋書研究ノ範圍ニ就テハ、一〇七〇頁ニハ政治地理云ト記セシガ爲メ、政治書ヲ第一ニ擧ケ之ヲ重視セシカ如ク解セラレタリト雖、一〇六八頁四行目ニハ『航海、天文、曆數、政治、地理ニ關スルノ書』云トイヒ、前後兩文ニ於テソノ順序ヲ同シクセズ。是レ畢竟輕重深淺ノ別ニ據リテ記載ノ順序ヲ立テオルモノニ非ルコトヲ示セルモノトイフヲ得ベク、余ハ執筆ノ當時ニ於テモ現在ニ於テモ、政治書ヨリハ寧ロ地理書航海術等ニ關スル書ガ、ヨリ多クノ關係ヲ有スルモノニ非ルカト考ヘ居レリ。

(三)和蘭ノ政治經濟書ニ就テハ既ニ博士ノ『十七、十八兩世紀ニ於ケル和蘭經濟學說』(三田學會卷四號以下)アリ。其他ニ於テハ未タ研究セシ所ナシ。實ヲ云ヘハ、余ハ博士ノ質問ニ接スルマテハ、利明ガ和蘭ノめるかんちりずむニ關スル經濟書

ヲ直接ニ移入シ引用セリトイフガ如キ考ヲ有セシコト毫モナカリキ。タダ洋學研究ノ上ヨリ利明ノ思想ノ根柢ニハ洋學ノ感化影響ノ存スルコトヲ認メントセシニ過ギズ。又和蘭ノめるかんちりずむの著述ガ直接ニ移入引用セラレタルニ非スンバ、利明ノ如キ開國進取の思想ガ我國ニ起ラズトハ考ヘ居ラズ。めるかんちりずむ以外ノ書籍ニテモ、ソノ人ノ思索ト、我國ノ事情、時代ノ趨勢等ニヨリテ相似タル意見ヲ立スルニ至ルコトナキニ非ルヘシ。即チ余ノ所謂洋學ノ影響トハめるかんちりずむの著述ノ引用ヲ意味セルニ非ス、上述ノ洋學ノ影響感化トイフ意ニ外ナラス。蓋、利明ハ蘭學者ニシテ多少歐洲ノ事情ニ通シ、且地理航海天文曆數政治等ニ關係アル洋書ヲ讀ミ、コレ等ノ洋書中ニハ歐洲ノ政事、開國進取等ノゴトヲ説ケルコトヲ、直接間接ニ知り得ヘキモノアリ。而モ鎖國ノ當時ニ於テ開國進取ノ必要ヲ説キ、渡海運送交易ノゴトヲ力説シ歐洲ノ事情ニ論及セルカ如キハ、ソノ思想ノ根柢ニ於テ洋書ノ影響ト時代ノ趨勢トニヨル

所少カラサルヘキヲ信セシニ外ナラス。利明ノ著書ニ於テハ引用書ヲ示セル所殆ントナク、又ソノ遺族ニツキテ藏書愛讀書等ヲ調査スルノ便ナキヲ以テ如何ナル洋書ノ如何ナル部分ヲ引用セシヤハ明カナラス。タダ利明ノ思想ノ中ニハ上述ノ洋學思想ノ加味シ居レルコトヲ説カント欲スルノミカノイ、ロ、ハ三項ニ示セル例證一斑ノ如キモノ目的ノ爲メニセルモノ也。

之ヲ要スルニ『本多利明ノ經濟說』ナル一文ノ要旨ハ瀧本教授カ

『其ノ時代(徳川時代ヲ指ス)ニ於ケル經濟說ハ學派ノ如何ニ拘ハラス徹頭徹尾支那學說ノ燒直ニシテ殆ント一點ノ創見ニ出テタルモノナシト言フモ亦過言ニアラサルナリ。……我カ舊時代ノ學者先生ハ漢儒ト云ハス和學者ト云ハス、又タ蘭學者タルチ問ハス、其ノ頭腦ハ元來皆支那學說ニ依テ陶冶セラレタルモノニシテ、純乎タル漢儒ハ勿論、昆陽、宣長、信淵等ニ至ルマテ表面ハ宛モ角事實上ハ悉ク支那學說ノ奴隸タルヲ免カレサルナリ。……政治經濟學ニ至リテハ倭儒以後滔々タル學者舉ケテ支那ノ崇拜者タラサルナシト云フモ亦謬言ニアラサルカ如シ』云々(日本經濟學說ノ要領三頁以下)ト説カレタルニ對シ、多少ノ疑問ヲ有シ、支那思想支那崇拜說ノ外ニ、尙西洋思想ヲ加味シ、

蘭學ノ影響ヲ受ケタル者ノ中ニハ、吉田博士ノ所謂『西洋思想ノ經濟談』(徳川政教考(下)一七頁)トシテ特ニ注意スヘキ者ノ存スルコトヲ舉ケンカ爲メニシテ、直接ニめるかんちりすむノ書ガ移入譯案セラレタルコトヲ說ケルニ非ス利明ノ思想ノ根柢ニ上述セル如キ洋學ノ影響存在シ、而シテソノ經濟說トシテ見ルベキ意見ノ中ニハ、所謂めるかんちりすむ說ト相類似セルカ如キ點モアリ、又ソレ以上ニ出テシ點モ存スルコトヲ述ヘントセシニ外ナラス。

然レトモ今ニシテ再ヒ余ノ論ヲ讀ムニ利明ノ說カ『支那學說奴隸說ニ非ルコトヲ高調シ』『西洋思想ノ經濟談』說ヲ信スルコト強ク、又利明ノ說トめるかんちりすむ說トヲ對比スルコトノ頗ル興味アルヲ感シ、且ツ用語ノ不注意ニ陷リシカ爲メ、往々ニシテ西洋經濟書ヲ直接ニ引用セルカ如ク解釋セラレ得ヘキ文字ヲ用ヒタルコトハ大ニ遺憾トスル所ナルカ故ニ、コノ機會ニ於テ一二用語ノ訂正ヲナサント欲ス。即チ『めらんちりすむ的思想を傳フル』(一〇七一頁一六行)トア

ルハ『叙フル』ト訂正シ『而モソノ洋學ノ影響タルヤソノ時代ノ關係ヨリ主トシテめるかんちりすむノ思想ニ支配セラレタル形跡存スルカ如シト雖』(一〇七二頁二行)トアルハ『而モソノイフ所ノ經濟說タルヤソノ時代ノ關係ヨリ主トシテめるかんちりすむノ思想ニ類似セル點モ存スルカ如シト雖』ト訂正セハ、一〇六七頁四行、一〇六八頁三行以下等ニ說ケル處ト相應シ、余ノ論旨ハ稍明カナルヲ得ン歟。

終リニ臨ンテ、杜撰ナル拙稿ニ對シ、福田博士ガ高教ヲ垂レラレタルコトヲ感謝ス。

因ニ經濟學讀書會ニ於ケル報告ニツキ瀧本教授ノ言トシテ『利明ハ和蘭學者ノめるかんちりすむ說ニ影響セラレタリト明言セラレタリ』トアルモ、當時余ノ報告ニ於テモ『洋學ノ影響ナル詞ヲ用ヒ、ソノ意味ハ上述ノ所ト異ルナク、直接ニ和蘭ノめるかんちりすむ說ニ影響セラレタリト今日マテ考ヘ及バサリシ所ナルヲ以テ、ソノ旨ヲ附言シ置ク、